

イラク戦争開戦時に、米国姉妹校を訪れて

甲斐 順

1. はじめに

2003年3月15日から25日まで、米国メリーランド州フレデリック郡に位置する姉妹校Walkersville High School (以下WHS)と首都ワシントン、本校のU教諭と生徒20名(男子1名、女子19名)と一緒に訪問しました。ちょうどこの時期は、出発直前まで国連の安保理がイラクに対する査察を継続するか武力を行使するかで揺れていました。現地に到着して数日後には、英米がイラクに対して戦争を開始し、緊張が走る場面もありました。この場をお借りして、姉妹校の特徴や私が現地で直接体験してきたことを報告させていただきたいと思います。

2. WHS

WHSは、フレデリック郡にある公立高校で、生徒数は全体で1,000人くらい。9年生から12年生の生徒が在学しています。余談になりますが、ちょうど到着した日の土曜日は、女子バスケットボール部がメリーランド州で優勝し、翌日の地元紙の一面には選手の写りが大きく載っていました。またスポーツ面には、'Dandy Lions'の見出しと記事、コーチと選手の喜ぶ写真で埋め尽くされていました。WHSのシンボルがライオンなので、'dandy'「とてもよい」と'lions'を、色が似ていることもあり、'dandelions'にかけていたようです。

話を本題に戻しますと、このWHSと本校は、1992年秋に姉妹校提携を結びました。そして、1994年6月に3名、1996年6月には11名、1998年6月に15名、2000年6月に18名、2002年6月に13名の生徒を本校に迎え、また本校からは1995年3月に7名、1997年3月に12名、1999年3月に15名、そして2001年3月、2003年3月にそれぞれ20名ずつの生徒を派遣しました。2年ごとに相互の学校を訪問することで、親睦と友好の絆を強めるとともに、異文

化理解を深めています。

WHSの校舎の正面には、"Learning is our task. Excellence is our goal."と書かれています。後でまた触れますが、'Planner'と呼ばれる手帳にもこの言葉が記されています。

授業は1日4時間で、1コマが約1時間半となっています。以下はベルと昼食時間を記した1日の日程です。

BELL AND LUNCH SCHEDULE

7:52- 8:00	Students go to lockers
8:00- 9:28	First Block
9:35-11:03	Second Block
11:10- 1:10	Third Block
1:17- 2:45	Fourth Block

Lunch A—11:10-11:40

Lunch B—11:40-12:10

Lunch C—12:10-12:40

Lunch D—12:40- 1:10

(p.8)

3時間目が長いのは、4つも設定されている昼食時間帯と関係しています。これは、カフェテリアで1度に全校生徒が食事をとれないためです。サンドイッチを持参してくる生徒もいれば、ランチを買って食べている生徒もいます。ただし、外から出前をとるのはご法度です。この昼食時間帯には複数の教師が張りついており、トラブルが起きないように見張っていました。

生徒は1人ひとりロッカーが与えられ、廊下にびっしりとロッカーが並んでいます。この廊下も授業が終わると教室移動の生徒でごった返します。

先ほど少し触れましたが、生徒は1人ひとり

‘Planner’と呼ばれる手帳を持っています。これは、日本でいう生徒手帳に当たりますが、B6サイズより少し大きめで、200ページ近くの分厚さです。中には、学校生活に関する細かい規定から、授業中に教室を退出する際の許可書やカレンダー、英語の品詞、掛け算表、世界地図、図形の公式や化学の元素表など、カラフルに作られています。

以下は‘Planner’にある校長先生のお言葉です。

Dear Students,
Welcome to Walkersville High School! We have a wonderful school that will provide you opportunities to successfully accomplish your personal goals. The first week of school is important to set your direction for the remainder of the school year. Now is the time to understand the student responsibility required to achieve a quality education. Knowledge of the information contained in this student planner and its use will increase the effectiveness of our interactions and your achievement in school. The future will offer us unlimited chances for attainment, prosperity and good fortune. We are anxious to accomplish our dreams.

Sincerely,

(署名)

Kristi Mitchell, Principal
(p.2)

自由な国アメリカというイメージを抱く私たち日本人にとって、この‘Planner’の中に、公立校でも次のような規定があるのには驚きです。

Students have the responsibility to dress and groom themselves in a manner that is safe, healthy, and non-disruptive to classroom and school. Bare feet will not be allowed. Students have the responsibility to not wear or display buttons, arm bands, flags, decals, or other badges of symbolic expression that disrupt the orderliness of the school or are legally libelous or obscene. Students may not wear clothing

that advertises drugs, alcohol, tobacco and/or obscene or abusive language. Students may not display or wear materials that are derogatory and/or discriminatory in nature, including the rebel flag. (pp.10-11)

ある教師が、始業前にトラブルがないかカフェテリアを見まわっていて、1人の女子生徒のTシャツを見て注意しました。そして、すぐにパーカーを着用するように促しました。その教師はその足で校長先生のもとを訪れ、報告を受けた校長先生はすぐにその生徒を呼び出すように命じていました。上記の規定にひっかかる服を着用していたようです。

‘Planner’には、上記の他にも太字で‘Public display of affection is unacceptable behavior.’と書かれていたり、CDやゲームの使用を禁じた文章など、禁止事項がたくさん盛り込まれています。

授業中はある特定の箇所のトイレを除いて、すべてのトイレが施錠されていました。生徒指導にかなり力を注いでいるのがよくわかります。

高学年では、進学クラスと一般クラスが設けられています。地域に農家を継ぐ生徒がおり、進学意識の低い生徒がいることも関係しているようです。また、特殊教育に対して、‘comprehensive’な立場で臨んでいるので、知的障害者も一般の生徒と一緒に授業を受けているのも特徴の1つと言えるでしょう。

授業が終わりますと、スクールバスで帰る生徒、保護者が迎えに来る生徒もおりますし、クラブ活動に精を出す生徒もいます。

3. 問題のある生徒についての会議

水曜日の午後、校内で Student Services Team (SST) の会議があり、そこに出席させていただきました。この会議は、問題を抱えている生徒たちについて報告・相談・協議するものです。会議には、10人の女性と3人の男性が出席し、特殊教育の教師、カウンセリングを行う教師、少数民族担当の教師など、担当はさまざまですが、いずれもこの学校のスタッフが出席していました。

1時間以上行われた会議のやり取りを以下に記します。各自の自己紹介の後、女性2人が作成してきた“referral form”を採用するか否かを巡って、激しいやり取りがありました。これは、問題のある生徒

の観察記録で、授業を行った教師が記入して提出するというものです。採用したい側は、「簡単にできる」「様子がわかる」などの主張を展開し、一方採用に躊躇する側は、「複雑」「時間がかかる」などで、お互いが納得するまで徹底的に論じ合っていました。結局、結論が出ず、作成した側が再度作り直して行くということでその場は収まりました。その後は、問題を抱える生徒の報告が行われ、退学しそうな生徒や'I hate my life.'と自殺をほのめかすように言っている生徒の報告が相次ぎ、深刻な生徒が複数名いることに驚くとともに、生徒をよく観察し、問題解決にチームで臨んでいる体制に感心しました。

4. 外国語の授業と教師の定年退職

WHSでは、スペイン語とフランス語の外国語の授業が設けられています。外国語をどう教えているか興味がありましたので、スペイン語の授業を2クラスほど参観させていただきました。

1つ目の授業は、一緒に引率しているU先生のホストを務める女性の先生の授業。時間の言い方について勉強しているところで、流暢なスペイン語で生徒に語りかけます。生徒はテンポよく答えを言うことはできませんが、できたときには、先生が、「エクセラント！」と言ってほめてるのがとても印象的でした。

もう1つの授業は、教歴32年で大ベテランの女性の先生に見せていただきました。両親がスペインから渡ってきたそうで、この先生も流暢にスペイン語を操ります。

使っていた教科書は557ページもあり、写真や絵がふんだんに盛り込まれており、百科辞典のようでした。授業では、再帰代名詞と感情表現について学習していました。教科書には、そのレッスンの目的が次のように英語で書いてあります。

At the end of this chapter you will be able to:

- ・ describe how you are feeling
- ・ tell what parts of your body hurt
- ・ suggest things you or others can do to feel better
- ・ discuss attitudes toward health and health practices in the Spanish-speaking world

文法の説明は英語を使っておられましたが、スムーズな授業運びに舌を巻きました。

ちなみに、メリーランド州では教師は州内で30年間教えると定年退職するそうです。したがって、最短で52歳で定年を迎えることとなります。ただし、途中、休んだり、他の州で教えたりした年数は数に加えないそうです。ですから、ここで紹介させていただいた先生は、32年も教えているにもかかわらず現役でいられるのです。こういう方たちは、メリーランド州の規定で60歳で最終的な定年を迎えるそうです。

5. WHSと小学校を訪れた本校の生徒たち

本校の生徒たちは、初日WHSの授業に参加し、2日目からは事前に準備しておいた日本文化紹介のプレゼンテーションを各クラスで行いました。書道、着物、剣道、弓道、日本のポップス、プリクラなど、伝統的なものから最新のものまで、2人から3人ぐらゐのグループで発表しました。発表が終わると、WHSの生徒や先生のほうから質問が飛んできます。質問の内容から、日本のことをよく知らないというのがわかりました。「小泉総理のことを知らなくて驚きました」と引率した生徒の多くが述べていましたが、それだけ日本が蚊帳の外に置かれていることがよく実感できたのではないのでしょうか。

一部の生徒たちは、隣接する Walkersville Elementary Schoolや少し離れたところにある別の小学校を訪れ、小学校低学年の児童に、折り紙を作ったり、福笑いをしたりして、日本文化の紹介を行いました。いずれも好評のうちに終わりました。

6. イラク戦争と現地

3月17日の午後8時から、韓国人が経営する寿司バーで、ブッシュ大統領のテレビ演説を聞きました。48時間以内にイラクのフセイン大統領とその息子たちが国外退去しないと重大な局面を迎えるという演説に、私のホストとU先生のホストは顔を見合わせ、「戦争」の臭いを嗅ぎ取っていました。

そして、48時間たった3月19日には英米がイラクに対して戦争を開始しました。現地では生徒や教師から戦争についてどう思うかたずねられることがしばしばありました。CNNやFOXなど、テレビでは常時イラク戦争の様態を伝えていましたが、多様な

チャンネルが用意されている米国では、チャンネルを切り替えるとドラマやアニメ、スポーツ中継などが見られるので、日本ほど緊迫感に欠けるようでした。

3月22日から24日まで首都ワシントンに滞在する機会を得ました。博物館、美術館で手荷物検査、ボディチェックを受けたり、ホワイトハウスの周囲では厳しい規制が設けられていましたが、それ以外はいたって平穏でした。ジョギングやたこ揚げに興じ、普段と変わらない生活を送るアメリカ人の余裕と落ち着きを実感しました。

7. その他

ホストたちには、バーやレストランに数多く連れて行っていただき、また、ギャンブル(競馬)も体験することができました。出走取り消しのことを

‘scratch’ということなど、知らない英語や文化をたくさん吸収させてもらいました。

また、WHSを発つ日には、Gettysburgを訪れることもできました。過去の戦場が平穏な観光地と化している姿に、平和のすばらしさをつくづく感じました。

戦時下にもかかわらず、姉妹校交流を通じてさまざまなことを体験することができました。紙面が尽きました。また別の機会に譲りたいと思います。

引用文献

Walkersville High School Student Planner 2002-2003. (2002) Premier.

(神奈川県立外語短期大学附属高等学校教諭)